

## 麻生区区民会議 第1回 (仮称) 市民活動・地域活動の活性化部会 議事要旨

- 1 開催日時：平成26年12月16日(火) 午後3時00分～午後4時50分
  - 2 開催場所：麻生区役所第7会議室
  - 3 出席者：[専門部会委員]  
岡倉委員、高橋委員、石井委員、石川委員、植木委員、小尾委員、高倉委員、  
林委員、宮本委員、(横田委員は欠席)  
[事務局] 鈴木企画課長、白石、麻生 [コンサルタント]佐藤、中島
  - 4 傍聴者 0名
  - 5 議事
    - ・部会長として岡倉委員。副部会長として高橋委員が選出され、承認を得た。
    - ・猪瀬生涯学習支援課長より、地域人材の発掘・育成事業の説明がなされた。  
→地域人材コーディネーターの位置づけ、役割は今のところ未定である。
    - ・広報物一覧について事務局より説明した。  
→行政目線の資料になっているので、区民目線の用途別の情報提供が求められている  
→市民館に置いてある広報物の数を調べたら564紙あった。子育て関係、外国語関係が多い
    - ・本部会におけるルールを2点定め、承認を得た。  
「意見は簡潔に述べる」  
「発言は最後まで聞く、途中で遮らない」
    - ・会議の仮目標を「市民活動・地域活動を活性化するための市民・行政が協働する仕組みをつくる。」とする旨、確認を得た。
    - ・各委員から課題が提供され、意見交換が行われた。  
(別紙参照)
- 次回は、部会の名称の検討とともに、今回出た課題を元に、更に深い議論を行い、課題の共通項を探っていく旨、確認を得た。

以上

- ・障がいを持つ人を支援する団体が、子どものころからの教育を通じて障がいを持つ人を理解するよう学校、他の団体と協働する仕組みをつくる。
- ・ボランティアを評価する仕組みをつくる。
- ・ボランティアに参加しやすくする仕組みをつくる。
  - ボランティアをするとポイントがもらえる。（横浜市の例）
  - 有償ボランティア（交通費、お弁当も含む）
- ・市民活動団体等が発信している情報が、なかなか必要な人に伝わらない。
- ・市政だより区版、地域情報紙などもあるが、情報の出し方、受け方、情報のルートなどの整理が必要である。
- ・市民活動の担い手をつくるためには、ボランティアについて、学ぶ、知ってもらう、興味を持ってもらう場が必要である。
  - ボランティアに入りやすい情報提供の仕組づくり。
- ・元気な高齢者を増やしたい。そのためには、閉じこもりがちの高齢者を外に出す必要がある。
  - 外に出すためにどのようなきっかけをつくるか。また、閉じこもりがちの高齢者をどのように見つけるかを検討したい。
  - 食生活改善講座や健康体操など、さまざまな取組をやっているが、出てくる人は元気な人であり、出てこない人は出てこない。
  - 閉じこもりがちの高齢者も友達が誘うと外に出るようである。
  - 岡上地区では、コミュニティがある程度形成されており、麻生区の他の地区と比べて、高齢者向けの講座に参加する人が多い。ただ、新しく転入されてきた方まで目が行き届いているかといえば、そうでもない。
  - 各施設や各セクションで高齢者の情報を持っているが共有されていない。そういう情報を共有するコーディネート機能が必要である。
  - 各地域ごとでは、一人暮らしで住んでいる高齢者等に対して配食等多くの事業をしているが、区全体で活性化につなげていく視点が必要である。
- ・市民活動、地域活動への参加者を増やすためには、さまざまなテーマ、目的で参加する機会があると良い。情報収集の場にもなる。
- ・人によって興味が違うので、その人に合った興味があるテーマがあれば自発的に参加するのではないか。その興味あるテーマをきっかけに市民活動に参加すると思う。
- ・企画を実施するためには、企画をしっかり考えられる人、情報を整理できる人、チラシやホームページなどをつくってPRできるなど、事務機能が必要である。
- ・市民活動がなかなか大きくならないのは、事務の負担が大きいというものもある。人材確保が難しい。
- ・事務局機能が充実していると、講師を引き受ける方が多く出てくる。
- ・現在、閉じこもっている人を外に出すのと、新たなリタイア組を地域に呼び込むのでは方向性が違う。
- ・閉じこもっている人の情報を入手できるのは「地縁」である町内会活動であり、リタイア組の知識は「知縁」である交流館やまゆりの活動で対応しているのが現状である。
- ・麻生区民は、民生委員の充足率が低いデータがある一方で、市民活動へ参加したい人が多いというデータもある。この差の問題を考えていく必要がある。
- ・地縁型コミュニティとテーマ（知縁）型コミュニティでは、担い手の集め方や活性化の仕方は違う。それぞれのコミュニティに整理して活性化方法を検討する必要がある。
- ・市民活動、地域活動、ボランティアといろいろな言葉がでていますが、それらは委員によっても認識が違う。まずは、認識の統一が必要。
  - 自分の存在価値を得る場所という意味では、サークル活動のメンバーになるのも「地域活動」や「市民活動」に入るのではないか。「地域」の範囲を、町内会と捉えるか、区全体と捉えるのではイメージが異なってしまう。